



当教室の研究グループが開発したMRI撮像法である脳のheavily T2強調3D-FLAIR画像(左図)。

この画像では、上小脳脚に代表される特定の白質線維が周囲組織と強いコントラストを持って高信号に描出され、白質線維の連続性・信号強度を高分解能画像で観察することが可能である。

従来、白質線維解析に広く用いられてきた拡散テンソル画像によるトラクトグラフィとは異なる画像アプローチであり、既存の手法に新たな知見を加えることによって、将来神経変性疾患の診療に寄与する可能性を有している。

脳のheavily T2強調 3D-FLAIR画像

(A, B: 軸位断 C, D: 冠状断 E, F: 矢状断)

CST: 皮質脊髄路 (corticospinal tract)

ML: 内側毛帯 (medial lemniscus)

SCP: 上小脳脚 (superior cerebellar peduncle)

PLoS One 2014;9(3):e91860. DOI: 10.1371/journal.pone.0091860より引用

〈参考文献〉

Yamazaki M et al. *PLoS One* 2014;9(3):e91860

Yamazaki M et al. *Nagoya J Med Sci* 2014;76(3, 4):285-291